

第9回
テーマ

体育科における「主体的・対話的で深い学びの実現」

体育科教育に求められていること、って？

単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中ではぐくむ資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。

(小学校学習指導要領解説体育編「第3章 指導計画の作成と内容の取扱い」)

体育科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を意識することが大切です！

今回は、授業改善のための手立てをご紹介します。

①学習活動の見通しの提示（主体的な学び）

学習の見通しの提示

マット運動

～ 本時の流れ～

1. あいさつ、健康チェック
2. 準備体操、マット準備
3. 本時の確認
4. グループ活動
5. 片づけ
6. 整理体操・ふりかえり

二 後菜のルール

- ① 体そうは元気よく
- ② マントの準備、片づけを
協力して行く。(2人以上で選ぶ)
- ③ 移動する時、3歩以上は
かけ足で移動する。
- ④ 真剣にやっている友だちの
じゃまをしたり 笑わせたりしない。

グループ活動のポイント

やる・みる・つたえる

「グループ活動のポイント」や「授業のルール」の提示

めあて達成のための活動方法等の提示



1. 自分の動をみつえり 身体・動・心・感情
2. 自分の様について 友だちと比べたり
3. 練習を通信 考えをいれり 習得の状況や感想
4. 関連する様 仕方をいれり 通達や通達の方法
5. ふりかえり

端末を用い、学習のめあて等を共有

めあて
グループでできる技を確認
し、グループに合った組み
合わせ技を選ぶ

②課題解決のための活動内容・手立ての工夫(主体的な学び)

運動量の確保も大切です！



「遅延アプリ」を使用して、グループの課題・成果を把握
(課題解決のための試行錯誤)



自分の課題に合った道具を選択
(自己決定の場)

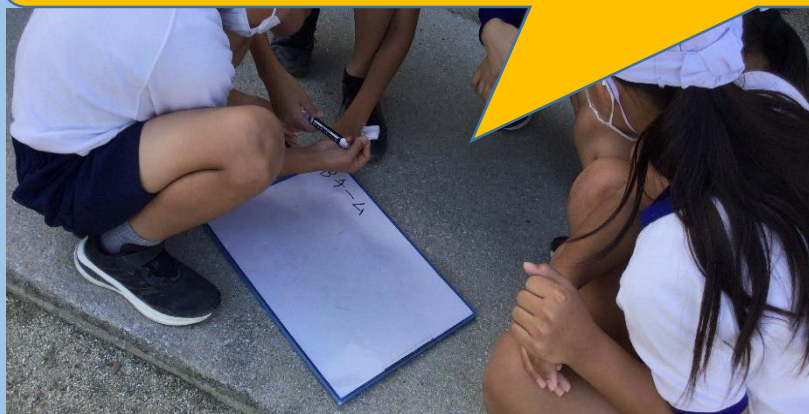
自分たちに合った場のルール(遊び方)を比較し、決定するための場づくり

- ・ベースなし
- ・ベースあり



③自己の思考を深めるためのグループ活動(対話的な学び)

ホワイトボードを用いて、
チームごとに考えをまとめ、
全体交流での共有につなげる



④学びを実感させるための振り返りの工夫(主体的な学び)



端末アプリを活用し、学習の
まとめや振り返りの提示、学
びについての成果の確認